

仕様書

1. 件名

二次電池の技術開発ロードマップ作成に関する調査

2. 目的

二次電池は様々な分野で利用され、今後もますます需要が拡大するものと考えられる。需要の拡大に伴い、各用途では「より高性能な二次電池」が求められ、それに対応するためにメーカーを中心とした活発な技術開発が行なわれている。

しかし、二次電池は用途の幅が広く、ユーザーが要求する性能も様々なため、それを実現する技術的な課題については、用途毎でも十分整理されておらず、共通技術等を利用した効率的な技術開発が実施できていないのが現状である。

そこで本調査では、二次電池の用途ごとに最新の二次電池技術に係る技術動向、二次電池の普及量予測等を調査する。また、ワーキンググループを設置して、市場動向、技術課題及び開発目標等を検討・整理する。また、ロードマップ委員会を組織し、調査結果やワーキンググループの検討結果を、2030年頃までを視野に入れた今後取り組むべき技術課題及びその実現期待時期、市場予測等を整理した「二次電池技術開発ロードマップ」、またその主要部分をまとめ「技術戦略マップ」を作成する。

3. 調査内容

(1) 調査対象

二次電池の全用途

(2) 実施方法

a. 基礎資料の調査・収集

調査に当たっては、既存の文献や特許、国の小委員会でまとめられた資料、他の調査レポート等を十分活用するとともに、必要に応じて追加調査を実施して最新の技術情報を収集する。

特に他の調査レポート・資料として、次の2点を参照しまとめること

「蓄電池の市場ニーズ及び研究開発の方向性に関する調査」

「NEDO 次世代自動車用蓄電池技術開発ロードマップ2008」

b. 技術課題の整理・研究開発の方向性の検討

上記調査結果を基に、各分野の二次電池に関する技術課題について、それぞれの違いや共通部分が比較できるように一覧表やグラフなどを用いて整理し、今後の技術開発の方向性を検討する。

c. 市場予測の検討

調査結果を基に、上記の研究開発の方向性にマッチさせた、主要用途における二次電池の普及量予測を立て、技術課題との関係を一覧表やグラフなどを用いて整理する。

d. ワーキングの開催

二次電池メーカー、ユーザー及び大学等研究機関などの有識者 15 名程度から構成されるワーキンググループを設置する。ただし、ワーキンググループのメンバー構成は NEDO と協議して決定する。ワーキンググループにおいては、「二次電池技術開発ロードマップ」の構成及び調査方法等を詳細に検討するとともに、その方針による調査結果等に基づいて、技術課題及び数値目標等を検討・整理し、「二次電池技術開発ロードマップ (WG 案)」を取りまとめる。なお、ワーキングは 2 回程度で開催する。

e. ロードマップ委員会の開催

関連業界団体代表等から構成されるロードマップ委員会を設置する。ただし、委員は最大 10 名までとし、また、委員会のメンバー構成は NEDO と協議して決定する。ロードマップ委員会は、WG 案等に基づいて、「二次電池技術開発ロードマップ」を、審議し決定する。なお、ロードマップ委員会は原則として 2 回開催する。

内容	H21		H22	
	12 月	1 月	2 月	3 月
調査	各種調査・ヒアリング		まとめ	
ワーキング	メンバー選出	第 1 回	第 2 回	
委員会	委員選出		第 1 回	第 2 回
アウトプット			技術戦略マップ	ロードマップ

図 1 : スケジュール

4. 調査期間

NEDO の指示する日から平成 22 年 3 月 31 日まで

5. その他

その他詳細については NEDO と相談の上、決定するものとする。

6. 予算額

800 万円未満

7. 報告書

提出期限：平成 22 年 3 月 31 日

提出部数：電子媒体 CD-R (PDF 形式) 3 部

電子媒体 CD-R (編集時の形式) 1 部

その他：英訳版プレゼンテーション資料の作成